

地域支援の拠点に承認

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

《 105 》

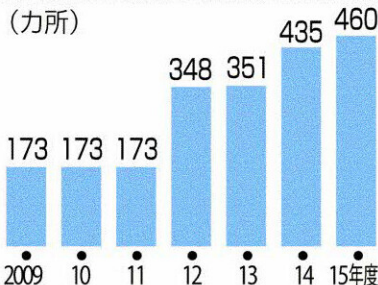
緊急性、専門性を要する急性期の治療は県立中央病院、通常の診療は地域のかかりつけ医が担当し、医療の分業化を進め、医療の分業化を進めてきた山梨県立中央病院。開院140年を迎えた5月、県医療審議会で県内初の「地域医療支援病院」に承認された。県の承認を経て正式に稼働する。高度医療や救急に専念し県民の医療ニーズに応えるとともに、地域の医療の充実を目指す。地域医療支援病院は地域の核病院として、か



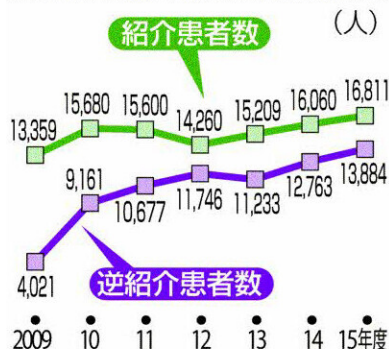
寺本 勝寛院長

開業医と連携、分業進める

県立中央病院 連携登録医療機関の推移



県立中央病院における 紹介患者数・逆紹介患者数



りつけ医から紹介された、長期入院や治療に高度な機器を必要とする患者の治療に当たり、治療後は地元の医師に逆紹介し、ケアをしてもらう。開業医は患者を継続的に治療でき、患者は自宅近くで治療を受けられるメリットがある。

寺本勝寛院長によると、地域医療支援病院の承認には病床数が2000床以上で救急を受け入れていること、研修制度が整っていること、新規患者に占める紹介患者の比

率が65%以上かつ逆紹介率40%以上などの条件がある。同病院は2009年から承認を目指し、地域の医療機関との信頼関係を深めてきた。

09年度に173力所だった連携登録医療機関は15年度には460力所に。紹介患者数は09年度1万3359人から15年度1万6811人、逆紹介患者数は4021人から1万3884人へと増

加。15年度の紹介率は65・7%、逆紹介率は54・7%となり、承認の条件をクリアした。寺本院長は「今後さらに病診連携、病病連携を強化し、当院の特徴を發揮し、患者さんが遅延なく適切な医療を受けられるよう努めたい」と話している。

「開業医との分業化が進んだことで当院の入院

Ⅱ第2、4木曜日に掲